

JACLaP WIRE No. 102 (2007年5月31日発行)

\*\*\*\*\*

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No. 102 です。

\*\*\*\*\*

===== <<目次>> =====

【事務局からお知らせ】 会員動向 (2007年5月18日現在数 691名, 専門医 517名)

【WHO トピックス】 WHO は患者の安全を守るために9か条の注意事項を発表

(Press May 2007 WHO-204)

【M. A. N (Medical Academy News)】

M. A. N 4月21日号、 5月1日号、 5月21日号

===== <<JACLaP WIRE>> =====

【事務局からのお知らせ】

会員動向 (2007年5月18日現在数 691名 専門医 517名)

【新入会員】

吉田 治義 先生 : 福井大学医学部附属病院検査部

菅野 渉平 先生 : 株式会社予防医学総合研究所

植田 光晴 先生 : 熊本大学大学院医学薬学研究部病態情報解析学分野

三橋 知明 先生 : 埼玉医科大学総合医療センター 中央検査部

【所属・その他変更】

高橋 伸一郎 先生 : 旧 東北大学病院検査部 助手

新 北里大学医療衛生学部医療検査学科 教授

榊原 綾子 先生 : 旧 名古屋大学医学部附属病院検査部病理 医員

新 豊橋市民病院臨床病理科 医長

西堀 眞弘 先生 : 旧 東京医科歯科大学医学部附属病院検査部

新 国際医療福祉大学医療経営管理学科 准教授

齋藤 紀先 先生 : 旧 秋田大学医学部臨床検査医学講座

新 市立横手病院臨床検査科・感染対策チーム

佐々木 毅 先生 : 旧 東北大学医学部免疫血液病制御学

新 NTT東日本東北病院

村上 一郎 先生 : 旧 国立岩国医療センター研究検査科科长

新 総合病院岡山市立市民病院臨床検査科 臨床検査科部長

原田 大 先生 : 旧 信州大学医学部病理学教室

新 日本医科大学附属病院病理部

園部 宏 先生 : 旧 独立行政法人国立病院機構福山医療センター研究検査科科长

新 公立学校共済組合中国中央病院臨床検査科臨床検査科部長

村井 哲夫 先生 : 旧 米国法人野口英世記念財団 常務理事

新 酒フーズ健康保険組合健康管理センター所長  
小島 英明 先生 : 旧 東京都神経科学総合研究所臨床神経病理  
新 三菱化学メディエンス病理・細胞診部門 (=)  
日本細胞病理ラボラトリー

【本年度の行事予定のお知らせ】

平成 19 年度、日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。  
開催日時、場所の変更もある場合があります。変更があり次第 JACLaP WIRE、JACLaP  
NEWS でお知らせします。その都度ご確認ください。

平成 19 年

5 月 27 日 第 69 回 教育セミナー

「生化学・一般検査・微生物検査の実技講習」

開催会場：防衛医科大学校

6 月 1、2 日 第 17 回日本臨床検査専門医会春季大会

開催会場：旭川グランドホテル（旭川）

大会長：旭川医科大学 伊藤 喜久 教授

6 月 2 日 第 29 回日本臨床検査専門医会総会

開催会場：旭川グランドホテル

7 月 20 日 第 25 回日本臨床検査専門医会振興会セミナー

開催会場：東京ガーデンパレス（東京）

11 月 22 日 第 30 回日本臨床検査専門医会総会

日本臨床検査専門医会講演会

開催会場：大阪国際会議場（大阪）

【選挙管理委員会からのお知らせ】

平成 19 年度 会長および監事選挙のお知らせ（予告）

日本臨床検査専門医会の会長および監事の任期は、平成 19 年 12 月 31 日をもって  
修了となりますので、今後以下の方の選挙を実施します。

会長 1 名

監事 2 名

詳細は正式な承認を経てご通知致します。

【教育セミナー報告】

第 66 回教育セミナー

平成 19 年 3 月 17 日、近畿大学医学部臨床検査医学古田格教授の担当で、8 名が参加

して行われた。

#### 第 67 回教育セミナー

平成 19 年 4 月 21 日、慶應義塾大学医学部臨床検査医学村田満教授の担当で、18 名が参加して行われた。

#### 第 68 回教育セミナー

平成 19 年 5 月 13 日、昭和大学横浜市北部病院木村聡部長の担当で、28 名が参加して行われた。

#### 【第 4 回 GLM 教育セミナー報告】

平成 19 年 5 月 12 日、宮地勇人教育研修委員長の担当で、19 名が参加し都市センターホテルにて行われた。

#### 【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIRE など電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなっています。

勤務先（所属）、住所、名称の変更および E-mail address の変更がありましたら、必ず事務局までお知らせください。

当会ホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送り下さい。

#### 【今年度会費振り込みのお願い】

1 月下旬に平成 19 年度会費振込用紙をお送りいたしました。

すでに先生のお名前が記入されていますので、勤務先、所属、住所、E-mail address の変更がありましたら通信欄にご記入をお願いいたします。

なお、振込用紙をなくされた先生は、

郵便振込口座：00100-3-20509 日本臨床検査専門医会事務局

までお願いいたします。 年会費 1 万円

また、ご自身の振込状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または電話 FAX でお問い合わせください。

今年度より過去 2 年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送、JACLaP WIRE の発信を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

-----  
===== << JACLaP WIRE >> =====

【WHO トピックス】 WHO は患者の安全を守るために 9 か条の注意事項を発表  
(Press May 2007 WHO-204)

WHO によると、10 人に 1 人の割合で医療事故が起こっている。患者の安全を守るために最も重要なことは治療や介護の最中に起こる事故を予防することである。今回、発表した 9 か条の注意事項は、患者の安全に関する諸問題を解決する方法である。過去 12 か月にわたり WHO の安全委員会に各国から 50 人の代表者が集まり討論した結果、次のような 9 か条の注意事項を発表した。

第 1 はそっくりで同じように見える薬剤、そっくりで同じように聞こえる薬剤の名称の対応、第 2 は患者さんの ID の確認、第 3 は患者さんを引き継ぐ時には連絡を密にする、第 4 は身体の正しい場所に正しい処置を行う、第 5 に電解質改善用の点滴液の利用の適正化、第 6 は治療法を変更する場合には間違いはないかを確認する、第 7 はカテーテルや点滴チューブの連結を間違えないようにする、第 8 は注射器や点滴セットは 1 度の使用しか認めない、第 9 は治療や看護中に発生する感染症を防ぐために衛生状態を改善することなどである。WHO はこれらの注意事項を加盟国に順守するよう要望している。

(十文字学園女子大学教授 森 三樹雄)

===== << JACLaP WIRE >> =====

■ MAN 4 月 2 1 日号

#### ○大腸手術の最良管理法を構築

第 81 回日本感染症学会 適切な周術期管理で感染症の発生を抑制

術前から術後まで周術期管理を適切に行えば、大腸手術後の手術部位感染症 (SSI) の発生率を低く抑えられることが、10、11 の両日、京都市の国立京都国際会館で開かれた第 81 回日本感染症学会のシンポジウム「周術期感染症：host-parasite-drug relationship からみた対策」で、竹末芳生氏（兵庫医科大学感染制御学）から報告された。海外のガイドラインやクリニカルパスを参考に、日本の現状に合わせて構築した感染防止対策を大腸手術を対象に 7 施設で実施したところ、標準偏差以内の 6 施設での SSI 発生率は 13.9% となった。日本の 50 施設が参加する日本病院感染サーベイランス (JNIS) での SSI 発生率 17.9% に比べ、低く抑えられたという。

#### ○臨床検査技師国試「合格者は 3004 人」

厚生労働省 合格率は昨年に比べ 1.8 ポイント増の 74.7%

厚生労働省は 6 日午後、3 月 2 日に実施した「第 53 回臨床検査技師国家試験」の合格者を発表した。受験者数は 4023 人で合格者 3004 人、合格率は 74.7% だった。

前回の合格率は 72.9%で、合格率は 1.8 ポイント増加した。配点を 1 問 1 点の合計 199 点満点とし、総得点 120 点以上が合格となる。

なお、午前の第 59 問には選択肢に誤りがあり、正解が得られないため採点から除外されたほか、午後の第 16 問において 3 つの選択肢に正解があったことから、3 通りの回答が正解として採点された。

#### ○放射線治療の格差解消が課題

第 63 回日本医学放射線学会 都道府県別の試行率に大きな差

第 63 回日本医学放射線学会が 4 月 13~15 の 3 日間、横浜市のパシフィコ横浜で開かれた。シンポジウム「放射線医学の光と影」では、根本建二氏（山形大学放射線医学）から、放射線機器の進歩が飛躍的に癌の治療成績を向上させた一方で、依然として施行率には大きな地域間格差が存在することが報告された。低侵襲で手術と同等の成績が得られるようになった放射線治療は、癌治療の選択肢として患者に理解が深まっているものの、放射線科医不足は否めないのが現状で、このギャップをどう埋めていくのか努力が求められそうだ。

#### ■MAN 5 月 1 日号

#### ○HbA1c の標準化は IFCC 法で

日本臨床検査医学会が医学会総会の分科会を開催

日本臨床検査医学会は、4 月 6 日から大阪で開かれた日本医学会総会の会期中に、第 8 回日本臨床検査医学会特別例会として分科会を大阪大学中之島センターで開催した。2008 年度から実施されるメタボリックシンドローム該当者の割合削減を目指す新健診制度では、ヘモグロビン A1c (HbA1c) は多くの人が受ける検査となることが想定されるため、富永真琴氏（山形大学医学部教授）は「IFCC（国際臨床化学連合）が認証する国際的標準化の値が望ましい」との考えを示した上で、日本糖尿病学会が進めている HbA1c の標準化などについて解説した。

HbA1c 値は、国際的には IFCC が HbA1c の定義から議論を開始し、標準物質の作成や分析化学的裏付けのある IFCC 法を用いて値付けしようと検討を重ねてきているという。富永氏は「JDS（日本糖尿病学会）値と欧米の測定値に差があることは最近ではよく知られてきた。今後、IFCC 値により国際標準化が実現されることが望ましい」と強調した。

#### ○ピロリ抗体検出キットを共同で販売

大塚製薬、栄研化学

大塚製薬と栄研化学は、胃潰瘍の原因とされるヘリコバクター・ピロリの抗体を

尿中から検出する大塚製薬の臨床検査薬キット「ラピランH・ピロリ抗体」を共同販売することになった。栄研が、健康診断施設など十分に普及していない健診市場を開拓する。6月中にも開始する。

販拡を図りたい大塚と、製品拡充を図る栄研の思惑が一致し、3月中旬に両社は共同販売契約を締結、4月9日に発表した。

「ラピランH・ピロリ抗体」は大塚単体で約6000万円強の売り上げがある。栄研の売り上げ目標は、市場開拓を優先させるとして数値目標は定めていないという。

また両社は、栄研の尿試験紙「ウロペーパーIII“栄研”」の共同販売を2月に発表していたが、4月25日から共同販売を開始することも明らかにした。大塚では手薄だった診療所市場を開拓したいとしている。

両社は、昨年9月に臨床検査領域での業務提携を行っており、共同販売はその一環。

#### ○ロシュ・ダイアグノスティックスの研究用酵素試薬、9品目の使用停止を通知 厚生労働省医薬食品局研究開発振興課

厚生労働省医薬食品局研究開発振興課は4月3日、ロシュ・ダイアグノスティックス社の製造する研究用コラーゲン分解酵素試薬9品目の製造工程で、米国産ウシ脳神経抽出物が添加されていたことを受け、当該製品を利用した移植・再生医療を差し控えるよう関係学会等に通知した。

3月27日に、コラーゲン分解酵素試薬で膵島移植に使われる「Liberase HI」の製造工程で使用される培養液に米国産ウシ脳神経抽出物が添加されていたため、米国国立衛生研究所(NIH)が当該試薬を利用した膵島移植を全米で一時的に停止したことが判明した。これを受けてわが国でも、膵島移植の関係学会あてに同様の移植を控えるよう通知。更にその後の調査で同種の研究用製品が同様の製法で製造されていることが判明したため、当該製品を使用した組織移植・再生医療等を差し控えるよう関係の学会および研究者、文部科学省と経済産業省あてに通知したものの。

該当のコラーゲン分解酵素試薬は次の通り。

- ◇Liberase HI、同PI、同CI、同RI、◇Liberase Blendzyme1、同2、同3、同4、
- ◇Collagenase P

#### ○中小規模医療施設向け血球計数装置を発売 エイアンドティー

エイアンドティーは、5月からスイス・オルフェ社が製造する血球計数装置MYTHIC18(J)を子会社のアットウィルから販売し、新規市場への販路展開を行う。

血球計数検査は、主に血液中の白血球、赤血球、血小板などの数を測定する検査で、診療前のスクリーニング検査として行われることが多い。しかし、血球計数検査の診療前検査は、大規模病院で大型装置を導入して行われることが多く、中小規模医療施設ではコストパフォーマンスの問題などもあり、装置の普及が遅れているの

が現状。

血球計数装置 MYTHIC シリーズは、小型で操作が簡便な上、わずか数分での結果報告が可能。また、平均故障間隔が2~4年と長く、安定稼働も特徴の一つになっている。利便性、運用コストの低減が図られているため、国内の中小規模医療施設を対象とした販売を開始する。

#### ○中欧4カ国に拠点新設へ シスメックス

シスメックスは4月19日、中欧市場における販売・サービス体制を強化するため、オーストリア、ハンガリー、チェコ、スロバキアの4カ国に拠点を新設すると発表した。

シスメックスは、4カ国においては、1970年代から現地販売代理店のミューラー（オーストリア）を通じ、検体検査用の機器・試薬および検査情報システムの販売サービスを行ってきたが、今回、ミューラーとの合意により、これらの事業を譲り受けることになったもの。

これに伴い、シスメックスの欧州統括会社であるシスメックスヨーロッパでは、2007年度内をメドに、これら4カ国に拠点を整備していく。

#### ■MAN5月21日号

#### ○ピロリ除菌で未分化型胃癌を抑制

第93回日本消化器病学会総会 10年間の長期追跡で明らかに

第93回日本消化器病学会総会が4月19~21の3日間、青森市の青森市文化会館などで開かれ、ヘリコバクター・ピロリ（*H. pylori*）除菌後の胃癌発生を10年間の長期にわたって追跡したところ、未分化型胃癌を明らかに抑制したことが、柳岡公彦氏（和歌山県立医科大学第2内科）から報告された。除菌後の胃癌は、胃粘膜萎縮がない人で発生率が低いことも明らかにされたが、除菌による胃癌の発生抑制は、6~7年後から明らかな差が見られ始めており、長期に観察しないと除菌による胃癌抑制効果を説明することが難しいという課題も残る結果となった。

#### ○医療制度改革で予防事業を充実

厚生労働省健康日本21推進国民会議 各団体が取り組み状況を報告

厚生労働省「健康日本21推進国民会議」の会合では、同会議構成メンバーの各団体から、健康日本21の取り組み状況が報告されたが、各団体から、医療制度改革で取り組まれる予防事業に、積極的に取り組んでいく姿勢が示された。

各団体の取り組み状況の中で日本看護協会はこれまで、[1]休養・こころの健康

づくり、[2]たばこ関連、[3]糖尿病・癌——を重点事項として活動を続けてきたと説明。中でも糖尿病や癌に関しては、熟練した看護技術・知識を用いて、水準の高い看護実践のできる看護者が必要との観点から、専門看護師および認定看護師の資格認定制度を運営し、5年ごとの更新を課していることを紹介した。

その結果として今年4月時点で、◇成人看護（慢性期）専門看護師（13人）、◇糖尿病看護認定看護師（114人）、◇ホスピスケア認定看護師（299人）、◇乳癌看護認定看護師（20人）、◇癌看護専門看護師（79人）、◇癌性疼痛看護認定看護師（222人）、◇癌化学療法看護認定看護師（147人）——が誕生するなど、成果が上がりつつある状況を示した。

## ○鳥インフルエンザの指定感染症を延長

### 厚生科学審議会感染症分科会

厚生科学審議会感染症分科会は4月27日、インフルエンザH5N1（高病原性鳥インフルエンザA）を指定感染症として、2類感染症に準じた扱いとする政令の1年間延長を決めた。ヒトーヒト感染力を持つウイルスの出現などに備え、入院措置等の発動を可能にすることが必要と判断したため。政令指定は来年6月11日まで延長される。

指定感染症は1～3類以外の既知感染症で、1～3類に準じた対応をとる必要がある場合に定めるもの。インフルエンザH5N1の区分は4類だが、この指定を受けて2類の規定が準用されている。

インフルエンザH5N1については2003年10月以降、ヒトへの発症事例が多発したことを受け、WHOの感染対策指針では、トリーヒト感染の段階から入院等の措置を講じることが推奨された。

こうした経緯から昨年6月12日、感染症法の指定感染症と検疫法の検疫感染症に指定して、健康診断、就業制限、入院措置など、2類感染症に準じる対応をとることにした。

分科会では、◇国内ではヒトへの感染源となるトリの感染事例が多発し、世界的にもヒトの感染患者発生国が、依然として拡大しているという現状認識、◇強いヒトーヒト感染力をもつウイルスの出現に対し、予断を許さない状況が続いているとの意見——があり、入院等の措置が可能になるよう備えることが必要と判断された。

## ○婦人科検診、若い女性の3人に1人が抵抗感—健康意識調査行う

### ロシュ・ダイアグノスティックス

ロシュ・ダイアグノスティックスがインターネットで未婚を含む20～50代の女性600人を対象に行った女性の健康意識調査によると、乳癌や子宮癌などの若年化傾向を知りつつも、20～34歳の女性で婦人科検診を受けているのは約3割と、検診に対する意識が低いことが分かった。受診しない理由としては「デリケートな診察を伴うので抵抗がある」などが挙げられ、検診に抵抗がある女性は3人に1人に上った。



76.0%が婦人科系疾患の若年化を知っているのに対し、実際に検診を受けているのは20～34歳は29.8%、それ以上の女性は56.9%と、30代半ばまでの女性の非受診の多さが浮き彫りになった。

受診しない理由（複数回答）としては、「デリケートな診察を伴うので抵抗がある」（34.0%）、「どんな検査項目があるのか分からないので不安」（25.0%）、「診察する医師が男性なので抵抗がある」（18.6%）などが多く挙げられた。また、年代を問わず「健康診断の項目になかったから」との意見も多く、婦人科検診への消極姿勢がみられている。

#### ○HbA1c 認知向上目指し

日本糖尿病協会、サノフィ・アベンティスが糖尿病に関する健康イベント

日本糖尿病協会（理事長清野裕氏＝関西電力病院院長）とサノフィ・アベンティスは6月3日、東京・台場で、糖尿病に関する健康イベント『グリコヘモグロビン（HbA1c）認知向上運動』を昨年に引き続き開催する。これに先立ち両者は14日都内で記者会見を開き、清野理事長が昨年12月20日の糖尿病に関する国連決議の意義を語ったほか、協会理事・企画委員長を務める和歌山県立医科大学学長南條輝志男氏が糖尿病の予防と治療において重要な指標となるHbA1cの解説を行った。また、健康イベントでは日本卓球協会の後援を得て、イベントに“ラージボール卓球体験”が組み立てられ、会見当日は福原愛選手も出席し、日本糖尿病協会の活動、HbA1c認知向上運動、闘病生活を送る糖尿病患者に対して応援のメッセージを述べた。

=====

JACLaP WIRE No. 102 (2007年5月31日発行)

☆発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

☆編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：今福裕司

福島県立医科大学臨床検査医学 TEL:024-547-1350・FAX:024-548-6016

☆本WIREの記事購読(配信・停止)・広告等に関するお問い合わせ先 uys-com@umin.ac.jp

☆日本臨床検査専門医会事務局(入会・退会)に関するお問い合わせ先 senmon-i@jaclap.org

☆日本臨床検査専門医会ホームページ <http://www.jaclap.org/>

☆JACLaP WIRE バックナンバー <http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

\*\*\*\*\*

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

\*\*\*\*\*

メーリングリスト配信先の変更には

1. 氏名、2. 現行登録アドレスと3. 変更希望メールアドレスを添えて  
uys-com@umin.ac.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。

\*\*\*\*\*